

## 2022年度(令和4年度)十日町幼稚園自己評価

### 1、園の保育目標

キリスト教精神により愛と平和と人権を大切にした保育

1. キリスト教保育
2. 一人ひとりの育ちを大切にする保育
3. 生命の輝きを知る保育

大人の都合や価値観が優先され、これが良い教育だと錯覚されることが多い中、「遊ぶこと、甘えること、愛されること」など、本来子どもが最も必要としていることを大切にしています。今受ける愛が人生の輝きの源になる、これが私たちの保育です。

### 2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した園の評価の具体的な目標や計画

- ①子どもたちが受容的・応答的対応を受けて、安心して幼稚園での生活を送るようにする。
- ②礼拝や誕生会や日々の生活を通して、自己肯定感（自尊感情）を身につける。
- ③子ども自身が遊びや生きた体験学習を通して自発性・自主性を高める。
- ④ケンカなどのぶつかり合いや共通理解されたルールのある日々の生活を通して、友だちと共に遊び、生活することを喜び、主体的かつ意欲的に取り組む。
- ⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育する。
- ⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営していく。
- ⑦日々の生活を通して、子どもと保育者、保護者と保育者が信頼関係で結ばれること。
- ⑧食事への意欲を養い、共に食卓を囲む喜びを体験する。
- ⑨地域社会の中の保育園として、地域に開かれた保育園として地域住民との交流をより促進する。

### 3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	現 状 分 析
①子どもたちが受容的・応答的対応を受けて、安心して生活し、いきいきしているか	それぞれの発達段階に応じて保育者が気持ちを言語化したり思いを受け止める関わりがなされていて、園内では自分の感情を安心して出せる場になっていると思う。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育っているか	自分のあるがままの姿を安心して保育者に対して表現している様子が見られる。その中で自己肯定感が育まれているように感じるが、家庭環境によっては不安や自信のなさが表れている様子も見られる。
③子どもたちの遊びを通して自発性・自主性を発揮し、また保育者が子どもたちにとってよき援助者となりえているか	こども主体の保育を進めていく中で、子どもたちが自分で好きな遊びを選んで遊ぶことができるように環境や教材の提供がなされていると思う。しかし個々対応でいっぱいになることや、教材の種類・量については子どもたちの遊びが十分に発展できる形になるために、もう少し遊具の選定と購入が必要である。
④子どもたちが日々の関わり合いの中で、友だちと共に過ごすことに喜び、主体的かつ意欲的に過ごしているか	年長児と年中児が同じクラスで過ごすことがここ数年で増えている中で、異年齢児交流を通してお互いに成長し合っていると感じる。特に発達に特性のある子どもたちが比較的多く在園している状況にあるが、その子たちも友だちと関わって過ごすことに喜びを見出している姿を見ることができた。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育しているか	一人ひとりの発達段階をよく理解して保育できるようになってきている。見通しをもって保育するためには一人で考えるより、クラス内での話し合いが大切で、その話し合いの場を通して子どもの発達に見通しをもつことができるようになってきた。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営しているか	報告・連絡・相談はよくできていると思う。しかしクラス内での細かな連絡のやり取り、そして給食室と保育現場での連携で不備が見られる場面もあった。しかし問題が生じた時、すぐに職員会で話し合い、職員会ノートも全員が回覧して問題の所在を理解し対応できたことは大変良かったと思う。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれているか	子どもたちと保育者は深い信頼関係で結ばれていると思う。保護者と保育者の信頼関係は個々のケースで違いがみられる。安心して預けておられる保護者と不安をもって預けておられる保護者も若干いらっしゃる。ただし、その不安をこちらに伝えてくださるようになってきているので、その対応はできている。
⑧食事への意欲が育ち、共に食卓を囲む喜びを子どもたちが感じているか	食への興味の差はあるが、旬の食材を用いた献立や、行事の時の特別メニューなど工夫されている。またそれぞれの発達段階に合った調理がなされ、給食室と担任とよく連携している。
⑨地域にある園として地域に開かれ、地域住民との交流が図られているか。	2022年度もコロナ感染症の影響によって、地域の方と交流を深めることはできなかった。公園に出かけたり散歩に出かける中で、地域の方々と挨拶することはでき、地域の方々も十日町幼児園の子どもたちと認識くださっていた。

#### 4、評価項目の取組をより深めるために保育者がどのように対応するのか

評価項目		保育者がどのように対応するのか
①子どもたちがいきいきして過ごすために	⇒	一人ひとりが安心して園生活を送るために、保育者は受容的応答的なかわりを大切にしながら、それぞれの個性を十分に尊重する姿勢を職員間でも子どもとの間でも示す。
②子どもたちの自己肯定感（自尊感情）が育つために	⇒	子どもたちのありのままの姿を受け入れ、“自分はここにいるだけでも大丈夫だ”と感じられること、そして意欲的に取り組む活動を重ねていくことで小さな成功体験を積み重ねていく。
③保育者が子どもたちにとってよき援助者となるために（環境設定や保育準備を含む）	⇒	一人ひとりの子どもたちが、好きなことや興味を持っていること、友だちとの関係性などを十分に把握し、遊びが発展していくような環境設定やその時に合った教材の提供などを行っていく。
④子どもたちが友だちと結びつき、主体的かつ意欲的に取り組むために	⇒	一人ひとりが違った個性をもった存在であることを前提に、日々の園での生活の中で友だちと一緒に遊ぶことを通して達成感や楽しさを感じられるように遊びの提供を行っていく。保育者は子どもの橋渡し役となる。
⑤発達段階をとらえ、見通しをもって保育するために	⇒	同じ学年であっても、月齢差で食事や生活リズムもそれぞれ違っていたりするので、子どもたち一人ひとりの発達に合わせて支援していく。また活動の持ち方や過ごし方も毎年同じことを単に繰り返すのではなく、子どもたちを育ちを見て子どもたちにより合った行事を計画実行していく。
⑥保育者、栄養士、看護師、園長が、それぞれに連携して保育・運営するために	⇒	何か問題が起こったりした場合、定時職員会議まで待つことなく必要に応じてその都度連絡・報告・相談を行う。またそれぞれの専門的見地から必要に応じて連携していく。そして外部の専門家の支援もいただきながら、その専門的見地を職員会議等で常に確認していく。
⑦子どもと保育者、保護者と保育者の間に信頼関係が結ばれるために	⇒	受容的応答的対応を基本に子どもたちとの信頼関係を構築していく。そして保護者とは日頃から子どもたちの育ちを伝え合い共有していくことを意識する。また保護者の話を傾聴し、保護者の思いをよく理解した上で、保育者も情報発信していく。
⑧食事への意欲と、共に食卓を囲む喜びを実感するために	⇒	美味しく食べるためにも、日々の生活リズムと遊びの充実をまず確認する。その上でみんなが気持ちよく楽しい雰囲気ですごせるような空間づくりを保育者が行っていく。
⑨地域に開かれ、地域住民と交流を図るために	⇒	コロナが感染症指定5類になるに伴い、地域との交流活動を再開していく。また未就園児とその保護者の活動や在園生保護者を対象とした「半日保育士体験」も実施する。

## 5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
環境構成、遊具、教材について	2022年度も昨年度と同様に各クラスに教材費用を予算建てしていたが、日々の行事の時などの材料以外に大きく支出したものはなかったため、新年度に向けて新しい遊具や教材の購入をできたらと計画している。園庭の小さな滑り台の下の土と砂場の砂については補充が必要なため近日中に補充する。
保護者対応について	2022年度は園内研修において、保育カウンセリングを学ぶことを通して、保護者対応について学んだ。保育者の意識の中で、保護者の方をカテゴライズし過ぎてかえって保護者の方との意思疎通が難しくなるケースがあることを学んだ。気を使いすぎることなく、大切な子どもを共に育てる仲間として保護者の方と信頼関係を結んでいくこと、特にその時々の子どもの育ちの様子を肯定的にとらえて、それを共有することが大切だと感じる。
行事について	コロナ禍での行事（活動）を行ってきた中で、行事を見直す機会が多くあった。これまで漫然と行ってきた行事は必要に応じて形を変えていくこと、そして親子のスキンシップを取る時間が難しいご家族もある中で、少しでも親子で関わり喜び合える活動を増やしていくこと、子どもたちの喜びが保護者の方に伝わり、保護者の方も子どもたちと一緒にいることを喜べるような行事を計画していきたいと思う。